

### ごあいさつ



自民党神戸議員団  
**坊池 正**

平素から、自民党神戸議員団に対しましての深いご理解と温かいご支援ご指導感謝申し上げます。  
11月20日に就任された久元喜造新市長を迎えて、平成25年第2回定例市会11月議会が11月29日から12月10日まで開会され、前矢田市長の意思を引き継ぎ、新体制が始動しました。  
国会では来年度の税制改正をめぐる話し合いが、政府・与党で本格的に始まり、最大の焦点は、  
①消費税率を10%に引き上げた段階で、食料品屋新聞・書籍などに低いの税率を導入するか。  
②消費税率10%時に税金の安い「軽自動車」を増税するか。③8%時に自動車取得税を引き下げるか。(5%→2%)④復興特別法人税を1年前倒しで廃止するか。⑤2015年度以降に法人実効率税を引き下げるか。⑥大都市の税収を地方に配分する新しい仕組みを導入するかなど。「負担増のかたち」が示されることになりそうです。

現在、日本は総人口の4分の1が65歳以上となり、年金、医療、介護などの社会保障給付は年間100兆円を超え、毎年増えゆく社会保障制度を次の世代に引き渡すためにも、消費増税実施が重要と考えられています。  
農業政策では、TPPにより40年あまり続いた減反政策が、5年後に「減反廃止」する方向で検討を進められています。現状維持が望ましいですが、本当に競争力のある農家を育てることにつながるのか、真の意味が問われようとしています。  
神戸市会自民党神戸議員団としましても、国の状況を注視しながら、市民の皆様を果たすべき役割を十分に認識し、引き続き事業運営をチェックして参ります。今後とも変わらずのご理解、ご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。日々寒さが増しますが、お体に気をつけて、晴れやかな新年をお迎えになられますよう、心よりお祈り申し上げます。

## 国道175号の道路整備 進まぬ神戸西バイパス

◎ 坊池 正 (建設局) 2013.9.19

神戸市においては、国道175号や神戸西バイパスなどで、国の直轄事業により、道路整備が進められている。用地買収が進められ最終段階に入ってきてはいるが、地元協議がまとまらないことが工事を終わられない原因となっている。

175号は、交通安全のため歩道のない2車線道路の拡幅(平野エリア)による慢性的な渋滞解消、神戸西バイパスの整備は、国道2号線、第二神明道路の渋滞緩和や、西神地域の緊急・災害時向上などにつながることから、必要であると考え、早期整備に向けて、国等へ積極的に進めるべきではないか。

### ◎ 中島建設局長

国道175号や神戸西バイパスなどで国土交通省が事業主体となり、神戸市も1/3の費用負担のもと協力して、整備が進めています。神戸西バイパスの事業は、当初旧日本道路公団の有料道路事業と国の直轄事業により整備されましたが、平成17年度の道路関係四公団の民営化に伴い、現在は全て国の直轄事業として整備が進められているところである。しかし、神戸西バイパスの残区間(6.9km)については、より整備の促進を図るためには、有料道路制度を活用することが必要と考えており、今後も引き続き、国道175号を含め国家予算要望等の様々な機会において、国及び、ネクスコ西日本に積極的に要望していきたい。

また、地元説明や地元合意に向けた取り組みは、基本的には、事業主体である国土交通省兵庫国道事務所が行っている。建設局には広域幹線係という組織があり、この係はまさに地元と事業主体との調整役を担う事務分掌となっている。神戸市としても、事業者側の意向をわかりやすく地元で説明したり、地域の要望を事業者へ伝えるなど、事業者と地元との調整役を担うことにより、事業が円滑に進み、地元合意が得られるよう取り組んでいきます。



決算特別委員会 建設局  
質疑を行う 坊池 正



決算特別委員会を進行する  
坊池 副委員長



## 民間メガソーラー事業について

◎ 坊池 正 (環境局) 2013.9.13

温室効果ガスの大幅な削減、原子力発電に頼らない低炭素社会の実現へ向け、六甲西や神戸港のメガソーラーが発電を開始するとともに、ポートアイランドや西区において、市の公有財産(土地、建物屋根)を活用した民間による自主的なメガソーラー事業など、民間による再生可能エネルギー等の導入の動きが進んでいる。しかし、固定価格買取制度は平成24年から3年間の事業であるため、今後、民間による取組みを促進させるため、積極的な支援策が必要と考えるが見解を伺いたい。

◎ 大森環境局長

神戸は、日照時間が非常に長いという地域特性がある。平成24年からの固定価格買取制度は、補助金などに頼らずとも事業採算性が確保できるような買取価格が設定されているため、民間事業者が発電事業に参入しやすいと考えております。

今後、安価に設置する新工法や太陽光発電の普及状況、メリット、融資制度、注意する点などを「KOBE ろっこう・かもめ発電」のHPなどで情報発信することで、市内における太陽光発電の普及拡大につなげていきたいと思っております。



押部谷町：平成26年10月完成予定

## 農道移管について

◎ 坊池 正 (建設局) 2013.9.19

土地改良区において農道を市道に移管し農道を舗装整備する取り組みが進められているが、移管にあたっては、農道を手直しの必要があると聞いている。しかし管理者は、経済的な余裕はなく、移管したくても移管できず、大きな負担となっているが、スムーズに移管を進めるために、積極的な取組みを行う必要があると考えるがどうか。

◎ 末永道路部長

公道として引き継ぎについては、建設局と一定の技術協議を行い、用地処理や道路図面など、道路の管理上支障のない状態を整えた上で、移管を行っています。

しかし、農道の中には、換地処分終了後、道路引継ぎ図面の整備に日時を要しているものも多く、建設局は、産業振興局と共に、将来管理上に支障のない範囲で縮尺等の条件を緩和や路線認定・供用開始告示等道路法手続きの迅速化にも努めて参ります。



2.5M  
神戸市が危険と思われる  
ところ(道と畑の高さ)



地元でガードレールを  
設置した後、移管!?

写真はイメージです。

神戸市議員 ぼういけ ただし

# 坊池 正

お問合せ  
ご相談は

神戸市消防局  
37年勤務

現在・神戸市議員 2期  
・文教子ども委員会委員  
・外郭団体に関する特別委員会 理事  
・阪神水道企業団議会議員  
・神戸市民生委員推薦会区委員  
・農業委員会委員 (H25.9~)

検索 神戸市会 生中継

本会議・委員会の  
坊池 正の質疑が  
インターネットで  
ご覧いただけます!

## 中学校給食に温かい御飯を

◎ 坊池 正 (教育委員会) 2013.7.9

中学校給食の検討に伴い、御飯は、炊き立ての温かい御飯を育ち盛りの中学生に食べさせるということが一番重要ではないかと思えます。自分らの経験からでも、お腹いっぱい温かい御飯を食べれば、勉強や部活等にやる気も出ますし、ひいては、米の消費拡大をすれば、神戸市の農業振興にもつながっていくというふうに思えます。中学校給食を行うにあたって、クラスごとに温かい御飯を保温できる炊飯器の設置検討について伺いたい。

◎ 荒木教育委員会事務局担当部長

学校側で個別の炊飯器を利用する場合、調理室、調理人員が求められ、予算的にも難しいと思われます。しかし、他都市では温蔵庫を配置しまして、御飯を温かいままで提供するような自治体もございます。つきましては温かい形で提供について考えて参ります。

## 冬期湛水(とうきたんすい)について

◎ 坊池 正 (環境局) 2013.9.13

冬期湛水とは、水田に冬場にも水を張る農法である。冬期にイトミミズなどが繁殖し、食物連鎖により、メダカ、ドジョウなどの生息場所となり、これらの生きものを捕食する水鳥が飛来するなど、田園地域の生物多様性の向上に寄与するものです。

農業面から見ても、除草効果、鳥の糞などによる施肥効果などが期待でき、安全で安心な有機農法を行う取り組みとして注目されている。豊岡では、冬期湛水がコウノトリの餌場となり、コウノトリ米(有機栽培でできた米)というブランドにて成功している。

平成23年度からの冬期湛水取り組みの検証状況と、今後について見解を伺いたい。



冬期湛水での  
コウノトリ  
(豊岡市)

引き続き頑張ります!

◎ 植松環境局 部長

冬季湛水の進捗状況ですが、初年度は漏水などにより進まず、平成24年度は、前年度の反省を活かし、ほぼ順調に進みました。その結果、8月に神戸版レッドデータでBランクに相当する哺乳類「カヤネズミ」の巣を確認、2月には、イトミミズの増加や冬の渡り鳥である「コガモ」の飛来が確認されるなど、徐々に生物多様性の向上が見られました。確認された生物の種類は、初年度18種であったが、平成24年度は31種確認できました。

冬期湛水は、生態系全体の保全や、有機農法で収穫した米に付加価値がつき高価に取引されるなどメリットなどがございます。今後、神戸にふさわしい冬期湛水水田管理のモデル構築して、関係部局や関係者が連携しながら、うまく広げていきたいと考えています。